



There is always light behind the clouds. - Louisa May Alcott

最後のセンター試験終わる…結果は？

去る1月18日(土)、19日(日)にかけてセンター試験が開催されました。来年度から大学入試制度改革により「大学入学共通テスト」へと移行するので、センター試験は今年度で最後となります。本校からは15名の生徒が受験して参りました。結果は下記の通りです。

【各科目の全国平均点】

教科	国語	地理歴史			公民		数学①	数学②
科目	国語	世界史B	日本史B	地理B	現代社会	政治経済	数学IA	数学IIB
全国平均点	116.6	65.1	67.2	67.9	59.1	56.3	53.3	51.6
本校平均点	94.4	—	49.1	—	55.0	—	33.5	14.5

理科① ※各科目とも50点満点				理科②			外国語	
物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物	英語	リスニング ※50点満点
34.3	29.0	32.7	28.1	61.6	56.2	58.7	118.9	29.3
—	—	36.0	—	—	—	31.0	60.5	16.8

※1 全国平均点は中間発表。小数点第2位を四捨五入してある。

※2 本校平均点は自己採点によるもの。

※3 受験者が2名未満の教科については平均点を記載していない。

昨年度の平均点と比較すると、「生物基礎」「地学基礎」「生物」「現代社会」を除くすべての科目で平均点が下がった。試験の難易度を考慮した全国偏差値においては、この4科目と「国語」を除くすべての科目で平均点が下がった。原因としては昨年度よりも一般試験での受験者が減ったことが挙げられるだろう。つまり、**推薦試験で合格内定を得た生徒が、得点を取れない現実が如実に表れたものであるといえる。**一方で、これから一般試験での受験を控えている生徒は(本人は納得していないかもしれないが)ここ最近ではかなり良い得点を取っており、受験に弾みをつけた。また、推薦での内定者においても自分の得意科目だけはしっかりと得点したいという自分なりの目標を持ち、その努力が成果となって表れた生徒もいた。

受験はあくまで通過点である。例年のことではあるが、大学に入学後も自らを成長させるためにも、進路内定者には、慢心せず内定者にふさわしい行動と結果を出してほしいと願っている。

また、これから一般受験を控えた生徒は、最後まであきらめないでやり抜いてほしい。今はきっと辛いだろうが、この経験はきっとかけがえのないものになる。そして、努力は何らかの形で実を結ぶ。頑張っている限り、応援してくれる人は必ずいると信じて夢を追い続けてほしい。Fight!!

大学新入試制度の盲点…きちんと理解していますか？

来年度から大学入試制度が変わるというのは、今までこの「羅針盤」でもお知らせしてきました。もちろん、ニュースや新聞等でも大きく取り上げられているので、皆さん知っているかと思います。この件で大きく報道されたのは「英語外部試験活用」と「国語、数学において記述式問題の出題」の2つ。大学入試制度改革の2つの柱の実施が延期されたことにより「結局センター試験の名前が変わるだけで大きな変化はないんでしょ？」と安易に考えている人も多いのではないのでしょうか。しかし、現実はそのようではありません。この2つが無くなっただけで入試制度に変化がないわけではないのです。今回は、特に本校でほとんどの生徒が利用する「推薦・AO入試」についてポイントを再度押さえておきましょう。

【2020年度より行われる推薦・AO入試の変更点(概要)】

- 推薦入試は「学校推薦型選抜」、AO入試は「総合型選抜」と名称変更(一般入試は「一般選抜」に)
 - ・学校推薦型選抜については、実施要項上の「原則として学力検査を免除」との記載が削除。
 - ・総合型選抜については、実施要項上の「知識・技能の修得状況に過度に重点をおいた選抜とせず」との記載が削除。
- AO入試・推薦入試において、小論文、プレゼンテーション、教科・科目に係るテスト、大学入学共通テスト等のうち、いずれかの活用を必須化。
- 調査書・推薦書の内容の見直し、本人記載の提出書類の多様化・内容の充実。
- 入試日程の変更・総合型選抜(現行のAO入試)…「出願時期:9月以降(現行:8月)」「合格発表時期:11月以降(現行は規制なし)」・学校推薦型選抜(現行の推薦入試)…「出願時期:11月以降(現行通り)」「合格発表時期:12月以降(現行は規制なし)」

つまり、①次年度より推薦入試においても学力検査を課す大学が増える可能性がある。②学力検査がなかった場合、小論文またはプレゼンテーションが課される。③生徒が準備する書類(ポートフォリオ等)が増える。ということです。

今までよりも「学力」及び「学校内外の生活の積み重ね」が重要になります。学力は付け焼き刃では身につけません。大きな目標を掲げている人、今から腰を据えて努力しよう。

進路コラム

「本を読み。」今までの人生で何度この言葉を言われたらろうか？筆者も学生時代に恩師や諸先輩方から何度となく言われている。そう言われるものの、当時はインターネットやテレビもある世の中でなぜ読書のみが特別視されるのかが分からなかった。最新の情報はむしろインターネットの方が得やすく、本を娯楽として考えれば、アニメやドラマ、ネット動画の方がずっと刺激的であると感じていたからだ。そしてそう感じている人は決して少ないだろう。しかし、年を追うにつれ何故、本を読み続けられてきたのかが何となく分かってきた。やはり、本を読むことでしか得られないものがあるのだ。今回は筆者なりに考える「本の良さ」について書きたいと思う。

① 情報や主張がより練られた形になっている。

本は筆者が書き、何度となく書き直し、校正したうえで印刷・製本されるという性質上どうしても世に出るまでに時間がかかってしまう。電子書籍が発展した現在においても、単に情報を早く得るためにはネットニュースやSNSに敵わない。なので、いち早く情報をつかみたいのであれば、絶対にインターネットやSNSを活用すべきだ。しかし、情報によってはスピードよりも重視されるべきこともある。様々な情報を集め、分析したうえで作者の主張や見解を含み、かつ読者に考えさせる形で表記する。この点においては他のコンテンツよりも本というものがどうしたって優れていると感じる。

② ことばや表現に対する感度が良くなる。

テレビや動画、漫画などで与えられる情報は映像によるところが大きい。それはそれで大変素晴らしい。しかし、本は映像にほとんど頼らず活字によってのみ伝えるという制約上、ことばや表現に最新の注意を払う。素晴らしい小説などはどんな映像よりも映像的に伝わる表現も存在する。(どう感じるかは人それぞれであるが)

SNSの登場により誰もが表現者となれる現代において、どう表現するか、どう伝えるかを考えることの重要性は増している。今こそ本に親しみ、表現の感度を上げていきたいものである。

③ 自分のペースで楽しめるので、そもそも面白い。

これは原作の小説と映画を対比して考えるとわかるかもしれないが、映画はそのストーリーのテンポが監督により決められている。そこに身を委ねるのも楽しいが、本を読む場合、立ち止まったり、戻ったり何度も繰り返し読んだり…と自分のペースで物語を進めることができる。これは大きな違いであり、本ならではの特性である。

いかがだろうか。これはあくまで筆者による考えであるが、「読書には読書の良さがある」ことについては疑う余地はないだろう。本を読むと、そこに答えがあり、新たな疑問や課題が生まれる。読書を通して知識が増え、感性が磨かれると同時に、会ったこともない作家と向き合い、ときには自分自身と向き合うことができる。確かに、スマートフォンは便利だし、これからの社会で使いこなせないのは相当なハンデになるだろう。しかし、情報にあふれスピードが求められる時代だからこそ、ゆっくりと本を読むことには大きな意味があるのではないだろうか。これを機に少しずつ読書量を増やして行ってほしいと切に願っている。